

「樂園」を撮る

三好 和義

みよし かずよし／大学卒業後、株式会社「樂園」設立。タヒチ、モルディブ、サハラ、ヒマラヤ、南極など世界各地で「樂園」をテーマに撮影を続け写真展を多数開催。写真集『RAKUEN』で木村伊兵衛賞を受賞。作品はジョージ・イーストマン・ハウス国際写真博物館に永久保存。国際交流基金買上げの作品「日本の世界遺産」は世界各地の写真展で紹介。2004年藤本四八写真文化賞を受賞。四国八十八カ所の作品は切手化されている。

僕は今までに六〇カ国以上を訪れ樂園をテーマに写真を撮つてきましたが、そのきっかけは大阪万博です。小学六年生の夏休み、大阪の親戚の家に泊まって二週間以上、毎日朝早くから最終まで通つて全バビリオンで写真を撮りました。万博で世界各地の自然や文化に惹かれ、カメラマンになれば世界を回れると考えたのです。

その後、東海大学在学中に練習船で南太平洋を回ったとき、ボナペ島で見た踊りに沖縄文化とのつながりを感じたりして南国が好きになり、在学中から樂園というタイトルで作品を発表してきました。僕にとっての樂園は南国から始まつたのです。しかし今では、世界中で樂園を探しています。聖地、極楽浄土、桃源郷などと言い換えられるでしょうが、要するに僕が興味のあるところが樂園なのです。

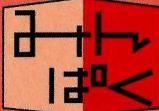
最初は風景の美しいところが樂園と思つていましたが、ハワイのビショップ博物館を訪れたときに、ポリネシアへの人の拡散史やフラに興味をもち、精神的な世界も樂園の条件と考えるようになります。ポリネシアの人びとの文化のつながりを見るにつけ、彼らがカヌーで太平洋に乗り出したのも、樂園を求めたためだらうかと考えたりします。また、郷里が徳島でお遍路さんが身近だつたこと

もあり、四国八十八カ所の写真も撮つてきました。空海にとつての理想世界、樂園を知りたいからです。中国やチベットのお寺や遺跡を訪れているのも、僕のなかでは空海つながりです。

こうした精神世界を撮るのに、写真技術の進歩が寄与しています。フィルムだと現像までに時間がかかり気持ちが冷めてしまうが、デジカメだとその場で確認できる。この即時性は精神的な世界を撮るのに不可欠です。ハワイでもフラを撮つて、あくこれだと思つて自分の気持ちがどんどん高まり、踊り手と自分が一体になれる、参加しているという実感をもしながら撮影できました。

フィルムやメモリーの感度が高まつたことも、写真が精神的なものに追いついてきた理由です。五年前のこと、新月の夜に、ここだと思う方角に向けて三時間ほどシャッターを開放し、星明かりだけで富士山が写つた経験があります。人には見えないものが写る、これは衝撃でした。デジタルだともつと優れていて、松明の光だけでおこなう伊勢神宮の祭りでも、神饌の伊勢エビと昆布が写りました。まさにスピリチュアルなものが写ると感じたのです。こういう世界に迫つていける写真技術の進歩に、僕は大きな期待をもつています。

月刊



目次

DECEMBER 2008 12
月刊みんぱく

01 エッセイ 世界へ世界から
「樂園」を撮る
三好 和義

02 特集 手塚治虫の遺したもの

手塚マンガの世界に見る
異文化接触と相対化の視点
久保 正敏

ストーリー・マンガの革新性
竹内 オスマ

マンガ産業の広がりと「鉄腕アトム」
中野 晴行

「リボンの騎士」以前・以後
藤本 由香里

科学・SFマンガと手塚治虫
村上 知彦

08 モノ・グラフ
みんなで持ち寄った「おかね」の展示
近藤 雅樹

10 地球ミュージアム紀行
ヨルダンで博物館をつくる
森田 恒之

11 表紙モノ語り
鳳凰
惺永 真佐夫

12 みんぱくインフォメーション

14 万国津々浦々
子連れフィールド・ワーカー奮闘記 ルーマニア篇
トランシルヴァニアで息子と暮らす
大塚 奈美

15 人生は決まり文句で
アイヌ アナクネ ピリカ
佐々木 利和

16 外国人として生きる
ふたつのことばで落語がもつてゐる
笑いのパワー全開！
藤井 幸之助

18 蔵時世相簿
⑨12月の犠牲祭
動物たちの受難
新免 光比呂

20 生きもの博物誌
武器になった生き物
山中 由里子

22 フィールドで考える
呪術から見る民族関係
—東マレーシアの華人と先住民
市川 哲

24 みんぱく ウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記